

シンポジウム

いま改めて 二つの大震災から学ぶ

— 阪神淡路大震災・東日本大震災と地理学・変動地形学 —

阪神大震災と東日本大震災は、ともに極めて稀な大災害であり、共通点も多い。
本当に予測できない「想定外」だったのか？今後、稀な大災害への備えはどうあるべきか？
原発と活断層の関係にも注目が集まっている。第一線で、活断層調査や地震予測に取り組む
地理学者・地震学者の講演を聴き、災害軽減のための社会のあり方について考える。

本当に「想定外」だったのか？

1995年1月17日 神戸六甲台にて小林郁雄氏撮影



2011年4月5日 大槌町にて渡辺満久氏撮影



プログラム

特別講演：大震災が「想定外」に至る分岐点・・・島崎邦彦（地震予知連絡会）
プレート境界型巨大地震と海底活断層・・・中田 高（広島大学名誉教授）
阪神淡路大震災と神戸の活断層を再考する・・・鈴木康弘（名古屋大学）
近畿地方の活断層の最新情報と防災上の問題・・・岡田篤正（立命館大学）
近畿圏における原子力発電所と活断層の問題点・・・渡辺満久（東洋大学）
総合討論

オーガナイザー：熊木洋太（専修大学）・宇根 寛（国土地理院）・鈴木康弘（名古屋大学）

2012/10/6/ 土 /13:00 ~ 16:30

神戸大学 鶴甲第1キャンパス（日本地理学会第一会場 K202）

〒657-8501 神戸市灘区鶴甲1丁目2-1

会場へのアクセスは日本地理学会ホームページをご覧ください。 <http://www.ajg.or.jp/>

一般公開・参加費無料

主催 / 公益社団法人日本地理学会・日本学術会議

後援 / 公益社団法人日本地球惑星科学連合

問い合わせ先 / 日本地理学会災害対応委員会

E-mail: saigai.chiri@gmail.com